

1. 科目名 (単位数)	教育哲学特論 (2単位)	3. 科目番号	EDMP5231
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、教育の根幹をなす原理や理論を哲学的視点から深く考察することを目的とする。具体的には、教育哲学の専門文献を読み解き、その思想や論点を解説する。さらに、既存の教育哲学の成果を批判的に検討しつつ、現代社会における教育の諸問題を哲学的な観点からディスカッションを行う。併せて、教育哲学の研究方法論を習得し、各自の研究に応用・活用できる教育実践者・研究者としての資質・能力の育成を目指す。		
8. 学習目標	1. 教育哲学に関する専門文献を精読し、主要な諸概念や思想的論点を自身の言葉で説明することができる。 2. 現代社会における教育の諸課題に対し、哲学的視座から多角的に考察した上で独自の「問い」を設定できるようにする。 3. 教育哲学の研究方法論を理解し、自ら設定した「問い」に基づき、適切な方法論を用いて自律的な探究活動(文献研究等)を行い、その成果を発表できるようにする。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	テーマごとの小レポート課題(1,000字程度)、テキストに関するワークシート課題、中間・期末レポート課題(2,000~4,000字程度)を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 高橋勝『応答する〈生〉のために-〈力の開発〉から〈生きる喜び〉へ』、東信堂、2019。 【参考書】 フッサール, E. (細谷恒夫・木田元訳)『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』、中央公論新社、1995。 ショーン, D.A. (佐藤学・秋田喜代美訳)『専門家の知恵-反省的実践家は行為しながら考える』、ゆみる出版、2001。 ハイデッガー, M. (細谷貞雄訳)『存在と時間(上・下)』、筑摩書房、1994。 デューイ, J. (市村尚久訳)『学校と社会・子どもとカリキュラム』、講談社、1998。 ルソー, J.-J. (今野一雄訳)『エミール』、岩波書店、1964。 レイヴ, J. ウェンガー, E. (佐伯胖訳)『状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加』、産業図書、2003。 ボルノー, O.F. (浜田正秀訳)『人間学的に見た教育学』、玉川大学出版部、2002。 アリエス, P. (杉山光信・杉山恵美子訳)『〈子供〉の誕生-アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』、みすず書房、1986。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 教育哲学に関する専門文献を精読し、主要な諸概念や思想的論点を自身の言葉で説明することができるようになったか。 2. 現代社会における教育の諸課題に対し、哲学的視座から多角的に考察した上で独自の「問い」を設定できるようにになったか。 3. 教育哲学の研究方法論を理解し、自ら設定した「問い」に基づき、適切な方法論を用いて自律的な探究活動(文献研究等)を行い、その成果を発表できるようにになったか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 積極的参加度(参加意欲、発言、発表等)総合点の30% 2. レポート(小レポート・中間・期末課題を含む)総合点の70% 上記の他に、大学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する		
12. 受講生へのメッセージ	教育哲学とは、教育のあり方を哲学的な視点から批判的に吟味する学問領域です。自ら問いを立て、積極的に対話しましょう。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	現代における人間の自己形成		
	【学習の目標】グローバル定常型社会における新しい教育的課題について学び、人間の「幸福」(Well-being)の実現に向けた多様な実践について、自分の言葉で語る。		
	【学習の内容】グローバル定常型社会における新たな教育的課題を展望し、人間の「幸福」(Well-being)の実現に向けた多様な実践とアプローチについて学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。		
	【キーワード】近代教育・グローバル定常型社会・幸福(Well-being)・生涯学習		
	【学習の課題】「グローバル定常型社会」における新たな教育的課題を構想する小レポートを作成する。		
	【参考文献】 広井良典『グローバル定常型社会-地球社会の理論のために』、岩波書店、2009。		
	【学習する上での留意点】既存の枠組みにとらわれない自由な発想が求められる。		
2. テーマ	現代の教育哲学 — 生命と文化		
	【学習の目標】教育哲学における生命と文化の文脈を理解し、これからの時代を生きる「人間」のあり方について、自分の言葉で語		

	ること。 【学習の内容】 参考文献をもとに現代社会の特質について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 現代社会・生命・文化・生きる意味・脱物質社会 【学習の課題】 「現代社会」の特質について説明した上で、これからの時代を生きる生命体としての「人間」のあり方に関する小レポートを作成する。 【参考文献】 見田宗介『現代社会はどこに向かうのか-高原の見晴らしを切り開く』、岩波書店、2018。 【学習する上での留意点】 現代という時代の特質を深く洞察し、生命体としての人間という原点に立ち返ることで、既存の価値観を再考する視座が求められる。
3. テーマ	社会化 (Socialization) と教育 【学習の目標】 デュルケームの思想における「社会化」の文脈を理解し、その現代的な意義について自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 個人主義教育への批判として登場したデュルケームの思想について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 啓蒙主義・個人主義・自立・社会化・相互主観性 【学習の課題】 デュルケームの思想を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。 【参考文献】 デュルケーム, E. (麻生誠・山村健訳) 『道徳教育論』、講談社学術文庫、2010。 【学習する上での留意点】 難解なデュルケームの思想に対し、興味を持てるポイントを見つけ、主体的に理解を深める姿勢が求められる。
4. テーマ	現象学 (Phenomenology) -- 生命と生世界 【学習の目標】 現象学について理解し、その学問的・現代的意義について、自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 人間が生きる「生世界」を理解する方法としての現象学を学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 現象学・自然主義的態度・エポケー (判断留保) ・生世界・世界の相互主観的構築 【学習の課題】 現象学を自分の言葉で説明した上で、「現象学的還元」に関する小レポートを作成する。 【参考文献】 フッサール, E. (細谷恒夫・木田元訳) 『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』、中公文庫、1995。 【学習する上での留意点】 現象学について、自身の日常的な経験と照らし合わせながら、主体的に理解を深める姿勢が求められる。
5. テーマ	プラグマティズム (Pragmatism) -- 生命と知の自己更新 【学習の目標】 デューイを中心としたプラグマティズムの思想を体系的に理解し、その学問的・現代的な意義について自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 現代日本の教育改革にも強い影響を与えているデューイのプラグマティズムの思想について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 進化論 (ダーウィン) パース・ジェイムズ・プラグマティズム・実用主義・道具主義・経験主義 【学習の課題】 「プラグマティズム」を自分の言葉で説明した上で、「プラグマティズム」の思想が現代に求められる理由に関する小レポートを作成する。 【参考文献】 デューイ, J. (松野安男訳) 『民主主義と教育』 (上・下)、岩波文庫、2015。 【学習する上での留意点】 デューイの言う「道具主義」という言葉の意味について、深く考察する姿勢が求められる。
6. テーマ	オートポイエーシス (Autopoiesis) -- 生命の自己組織化 【学習の目標】 生命の自己組織化プロセスとしてのオートポイエーシス理論を体系的に理解し、その理論の学問的・現代的な意義について、自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 自己組織系理論の基礎となるオートポイエーシスの理論について学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 オートポイエーシス・生命システム・自己再生産・観察者 【学習の課題】 オートポイエーシスの理論や考え方を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。 【参考文献】 マトゥラーナ, H.R.・ヴァレラ, F.J. (河本英夫訳) 『オートポイエーシス』、国文社、2007。 【学習する上での留意点】 ヒトを、オートポイエーシスの観点から把握し、生命現象の本質を解釈しようとする姿勢が求められる。
7. テーマ	問題感受から解決に至る経験 (Experience) -- J.デューイ 【学習の目標】 デューイの「経験」の概念について理解し、その現代的な意義について、自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 デューイの「経験」の概念について、その定義や多面的な意味を体系的に学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 センス・データ論・観念論・行動主義・道具主義・創造的知性 【学習の課題】 「経験の再構成」という言葉をめぐる解釈に関する小レポートを作成する。 【参考文献】 デューイ, J. (市村尚久訳) 『学校と社会・子どもとカリキュラム』、講談社学術文庫、2000。 【学習する上での留意点】 J.ロック以降のイギリス経験論とは異なるデューイの「経験」という言葉の独自の意味を深く解釈しようとする姿勢が求められる。
8. テーマ	正統的周辺参加 (Legitimate Peripheral Participation) -- レイヴとウエンガー 【学習の目標】 正統的周辺参加の理論と実践について理解し、この理論の現代的な意義について、自分の言葉で語ること。 【学習の内容】 レイヴとウエンガーの学説をもとに、「学ぶ」ということは、ある状況に周辺から参加しつつ、熟達者と応答を繰り返しながら、状況に深く組み込まれていく「参加プロセス」であることを学習する。 テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。 【キーワード】 正統的周辺参加・状況に埋め込まれた学習・熟達

	<p>【学習の課題】「正統的周辺参加」を自分の言葉で説明し直した上で、この理論の意義について小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 レイヴ, J.・ ウェンガー, E. (佐伯胖訳) 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』、産業図書、1993。</p> <p>【学習する上での留意点】 正統的周辺参加の理論について、自身の日常的な経験と照らし合わせながら、主体的に理解を深める姿勢が求められる。</p>
9. テーマ	リフレクティブな知 — D.シヨーン
	<p>【学習の目標】 省察的実践の理論と実践について理解し、この理論の現代的な意義について、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 リフレクティブな知とは何か、それをどう磨いていくのか。医師、看護師、教師等の対人援助の専門家が習得する知は、単なる技術的合理性によるものではなく、個々の状況に埋め込まれた意味を深く感受し、認知できるリフレクティブな知であることを学習する。</p> <p>テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】 リフレクティブな実践・ 専門家の知・ 技術的合理性・ 行為の中の省察・ 反省的実践家</p> <p>【学習の課題】 「省察 (Reflection) 」について自分の言葉で説明し直した上で、この理論の意義について小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 シヨーン, D.A. (柳沢昌一・三輪建二訳) 『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』、鳳書房、2013。</p> <p>【学習する上での留意点】 省察的実践の意義について深く考察し、実践しようとする姿勢が求められる。</p>
10. テーマ	偶然降りかかる「受苦の経験」 — O.F.ボルノー
	<p>【学習の目標】 ボルノーの思想における「経験」の意味を理解し、その学問的意義について、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 ドイツ語における「経験」と「体験」という言葉の意味の厳密な違いを解説した上で、「偶然」から学ぶということの深い意味を学習する。</p> <p>テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】 経験と体験・ 受苦の経験・ 予測のための経験・ 沈殿する体験</p> <p>【学習の課題】 ボルノーの思想を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 ボルノー, O.F. (浜田正秀訳) 『人間学的に見た教育学』、玉川大学出版部、2002。</p> <p>【学習する上での留意点】 ボルノーの経験論に対し、興味を持てるポイントを見つけ、主体的に理解を深める姿勢が求められる。</p>
11. テーマ	純粹経験 — 西田幾多郎
	<p>【学習の目標】 「経験とは何か」を多面的に考察し、「経験」の多義性について、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 西田幾多郎の「純粹経験」の概念について学習する。</p> <p>テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】 純粹経験・ 主客未分・ 絶対矛盾的自己同一・ 京都学派・ 善の研究</p> <p>【学習の課題】 西田幾多郎の思想を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 西田幾多郎 『善の研究』、岩波書店、2012。</p> <p>【学習する上での留意点】 主客未分化の「純粹経験」という概念について、その本質を深く考察する姿勢が求められる。</p>
12. テーマ	未来を予知する経験 (Empirie) / 偶然降りかかる経験 (Erfahrung) — M.ハイデガー
	<p>【学習の目標】 ハイデガーの「経験」の概念を理解し、その学問的・現代的な意義について、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 ハイデガーの思想における「経験」の概念について学習する。</p> <p>テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】 偶発的経験・ 受動的経験・ 受苦を乗り越える生</p> <p>【学習の課題】 ハイデガーの思想を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 マルティン・ハイデッガー (細谷貞雄訳) 『存在と時間』 (上・下)、筑摩書房、1994。</p> <p>【学習する上での留意点】 難解なハイデガーの思想に対し、興味を持てるポイントを見つけ、主体的に理解を深める姿勢が求められる。</p>
13. テーマ	他者 — E.レヴィナス
	<p>【学習の目標】 人間形成における他者の存在を理解し、他者の存在について、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 他者とは何か。人間形成において他者とはどのような存在なのか、近代教育学における他者問題について学習する。</p> <p>テキストの精読を通して、批判的思考力・論述力を養う。</p> <p>【キーワード】 他者・ 他者の顔・ 無限の責任・ ヴァルネラヴィリティ</p> <p>【学習の課題】 レヴィナスの思想や「近代教育学における他者問題」を学び、各自が考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 レヴィナス (熊野純彦訳) 『全体性と無限』 (上・下)、岩波書店、2005-2006。</p> <p>【学習する上での留意点】 「他者」について、自身の日常的な経験と照らし合わせながら、深く考察する姿勢が求められる。</p>
14. テーマ	哲学対話と教育
	<p>【学習の目標】 自ら関心のある言葉や出来事について、哲学的な問いを立て、受講者同士で対話し、対話を通して気づいたことや考えたことについて、自分の言葉で語る。</p> <p>【学習の内容】 哲学対話の意味を体験的に学習する。</p> <p>【キーワード】 マインドセット・ 探究の共同体・ 子どものための哲学・ ファシリテーター</p> <p>【学習の課題】 各自が設定した「哲学するテーマ」について説明した上で、「哲学カフェ」を通して、気づいたこと、考えたことについて小レポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 寺田俊郎他編著 『哲学対話と教育』、大阪大学出版会、2021。</p> <p>【学習する上での留意点】 対話・語り合うことの意味について、深く考察する姿勢が求められる。</p>
15. テーマ	ふりかえりと総括
	<p>【学習の目標】 本講義のふりかえりとまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】 前半では、各自が作成した期末レポートの発表を中心に行い、後半でまとめを行う。</p> <p>【キーワード】 発表を通じたふりかえりによる学びの深化</p> <p>【学習の課題】 期末レポート課題を発表すること。</p> <p>【参考文献】 特になし</p>

【学習する上での留意点】 受講生各自の発表を通して、本講義で学んだことをふりかえりながら、各自の探究へと深化させる姿勢が求められる。